



APOLLO  
MEDICAL HOLDINGS

# 海外研修だより

～薬剤師だって、空を飛ぶ～



## 視察内容

**視察地: ボストン・ニューヨーク**

**日程: 2017.8.15～8.22**

8.15(火) 移動日

(羽田空港→ミネアポリス経由→ボストン)【飛行機11時間15分】

出発前: 羽田空港にてオリエンテーションセミナー&研修ブリーフィング

8.16(水) 午前: マサチューセッツ薬科大学薬学部にて講義

午後: 訪問① Walgreen's Pharmacy at Joslin Diabetes Center

訪問② Walmart(調剤薬局併設型スーパーマーケット)

8.17(木) 午前: マサチューセッツ薬科大学薬学部にて講義

午後: 訪問③ IWP社(メールオーダー薬局)

訪問④ Whole Foods Market

8.18(金) 午前: マサチューセッツ薬科大学薬学部にてキャンパス内の薬局見学

修了証書授与式・記念撮影

午後: 訪問⑤ MCPHS Research Laboratories(大学内の研究センター)

訪問⑥ Costco Wholesale(ドラッグストア併設型のコストコ)

ボストン市内視察:

ハーバード大学、ビーコンヒル、クインシーマーケット等

8.19(土) 午前: 移動(ボストン→ニューヨーク)【バス5時間】

車中にて研修まとめセミナー(意見交換会)実施

午後: 訪問⑦ CVC Pharmacy(大型チェーンドラッグストア)

訪問⑧ Duane Reade-Wall Street Flagship Store(ドラッグストア)

ニューヨーク市内視察: バッテリーパーク等

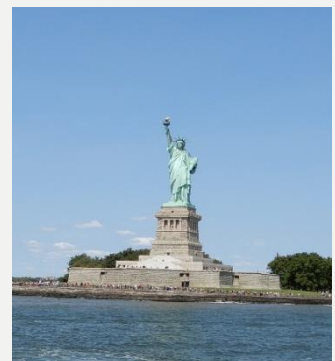
8.20(日) 終日自由視察: ニューヨーク1日観光

8.21(月) 移動日

(ニューヨーク→ミネアポリス経由→羽田空港)

【飛行機15時間30分】

8.22(火) 帰国



# 視察内容

## □マサチューセッツ薬科大学講義

### ②薬剤師の臨床ケアの手順

患者に“よりよい”“効率的な”“費用対効果のある”治療を提供するために薬局実務家の共同委員会(JCPP)という組織がある。

薬剤師がヘルスケアチームの一員として患者ケアに参加し、いかに能力を発揮できるかを考える組織。

患者ケアのプロセスは

情報収集⇒情報の評価⇒ケアプランを立てる⇒導入⇒フォローアップと段階があり各段階をどのようにすすんでいくことが重要かを説いている。

1つ1つに特別なことは何もなく、スポーツで言えば「基本が大事！」というような内容。当たり前のことをおろそかにしない。身が引き締まる思いでした。

### ②患者との効果的なコミュニケーションスキルの実践

薬剤師として、よりよい治療を提供するため、社会に薬剤師をアピールするためにコミュニケーションを学ぶ。

相手を理解するために、自分を理解してもらうために、文字で、議論で、プレゼンでコミュニケーションを磨く。

アメリカでは表現することは“技術”として教育されている。決して自分を主張するためのものではなく相手を理解するためのものである。この考え方は自分にはなかった。



## 参加者からの感想

今回の研修を通して、アメリカと日本の医療制度の違いや薬剤師の在り方、文化や教育の違いなど多くのことを学ぶことができた。その中で、一歩先を行く米国の医療システムの素晴らしさを体感した半面、国が置かれている現状の違いにより、そのすべてをそのまま日本に当てはめるのは難しいと感じたのも正直なところである。日本でも見習うべき点は積極的に導入し、超高齢社会の日本だからこそ必要となる、“在宅医療”や“地域包括システムの推進”等、日本独自のシステムを構築していく必要性を実感した。

